

離島は、ハンデじゃない。奄美群島で挑戦するリアルな物語が、ここにあります。

島サバクリエイティブ

GCD TALK SHOW

令和7年度
チャレンジ人材交流
連携促進事業

入場無料

喜界島で初開催!

令和8年

2月8日 日

開場 13:00

開会 13:30

会場 喜界町自然休養村管理センター

島興師たちのこんな本音を聞きたかった!
奄美群島における島のモノゴトの可能性にチャレンジ!
次世代につなぐ島ツチュによる悪戦苦闘の
プレゼンテーション形式トークイベント!!



from 喜界島
THINKING OF KIKAI 代表
谷川 友里



from 喜界島
喜界島ジオパーク推進協議会 事務局員
土屋 純子



from 喜界島
鹿児島県立喜界高等学校
サンゴ留学生



from 奄美大島
(合)AMAMIバリュープロデュース 代表
林 晋太郎



from 沖永良部島
(一社)イイタバ沖永良部 代表理事
橋本 真太郎



from 徳之島
徳之島ゲストハウスみち 代表
古林 香奈代



from 与論島
与論住まいるプロジェクト 実行委員長
江藤 善真



同時開催 奄美群島チャレンジ商品展示販売会

株式会社HOWBE
喜界島の豊かな自然が育んだ美味しい素材に、ひと手間を加え、島の新しい魅力となる特産品を創っています。

プリン専門店che プリンカクメイ
奄美大島の素材を使い、一つひとつ手作りにしています。高級感溢れる「華リッチプリン」3種類を販売いたします。

一般社団法人 徳之島観光連盟
徳之島子宝空港を拠点に、観光情報と一緒に徳之島の楽しさ・温かさ・豊かさをお届けしています。

合同会社TSUMUGU
「島の恵みで笑顔を作る!」奄美群島の魅力あふれる1次産品を使った商品作りに取り組んでいます!

くじらカフェ & 商店
くじらカフェからはじまる「しあわせ循環の物語」。島の素材、人材を活かした「ありがとう」があふれる商品です。

主催 奄美群島広域事務組合

協力 あまみエフエム / 株式会社しーま

問い合わせ 奄美群島広域事務組合 Tel.0997-52-6032 アーマイナープロジェクト Tel.0997-53-2202

GCD TALK SHOW

in 喜界島

人口が少ない。市場が小さい。距離が遠い。
奄美群島で事業を行うことは、決して有利な条件ばかりではありません。島々で挑戦しようとする多くの人が、同じ不安を抱えています。
このイベントは、すでに一步を踏み出した島ツチュたちが、その不安とどう向き合い、どう乗り越えてきたのかを語る場です。
成功の裏側にある迷いも、失敗も、工夫も。島だからこそ生まれる共感が、次の挑戦を後押しします！



from 喜界島

THINKING OF KIKAI 代表
谷川 友里

1985年2月8日生まれ。東京都出身。
観光系の専門学校を卒業後乗員、販売・営業などを経て結婚。
転勤族の夫の赴任先へ付いてまわる際に、どこでもすぐに仕事が見つかる保育士資格を取得し10年ほど保育の世界へ。転勤で様々な土地の暮らしを経験してきて、2021年5月「自分たちが気に入った土地に長く住んでみたい。」と喜界島への移住を決意する。
ゆったりとした暮らしを夢見ていたが、現実には人口減少など様々な課題があることを知り、島のことを話したり、考えたりする場作りをしようと「THINKING OF KIKAI」を開催。「島について、いつまでも考え、話そう。」を理念に活動をする。
どうしたらもっとたくさんの人に島のことが「自分事」になるのかと考える日々。高校生のボランティアグループと一緒にゴミ拾い活動をしたり、サンゴ留学生の寮のスタッフをさせていただいている。1年ほど前から念願の犬を飼いはじめ、犬のいる島暮らしを満喫している。



from 奄美大島

合同会社AMAMIバリュープロデュース代表
林 晋太郎

奄美大島出身。奄美市笠利町在住。
大島高校を卒業後、九州大学入学。
新卒で農林水産省に入省、国の政策立案に携わる。
2019年から3年間はアフリカのタンザニアで外交官として勤務。
在任中に新型コロナが発生したことで自分の人生を見つめ直し、奄美へのUターンを決意。
2022年3月に帰国し、同年6月に合同会社AMAMIバリュープロデュースを設立。
現在は、笠利町においてタンザニアで出会ったバナナビーンズの国産化に取り組みつつ、輸入バナナの販売や、2024年10月にオープンしたAMAMIバナナファームカフェPolePoleの運営に取り組む。



from 徳之島

徳之島ゲストハウスみち代表
古林 香奈代

1993年生まれの33歳。千葉県育ち。徳之島移住6年目。
徳之島町徳和瀬の母と伊仙町阿三の父から生まれた徳之島2世。
大学・大学院で西洋美術史を学んだのち、香川県直島の地中美術館で勤務。
徳之島移住を決めた2つの大きな理由は、観光地で働くことに嫌気がさしていたことと、民俗学を嗜んでいた祖父の遺した資料が、徳之島で未整理のまま放置されていたこと。2020年に仕事を辞めて移住し、ゲストハウス兼カフェを開業するとともに、店舗で祖父の資料を公開。現在、2軒のゲストハウス運営・着地型旅行事業・食品（ジンジャーエール）製造・デザイン事業・イベント事業・ポッドキャスト番組運営・1歳児の親をしている。やりたいことは口にするのと叶うのであえて書きませんが、今の夢は、山がきれいに見える場所にアートギャラリーを作ることと、「芸術祭」に代わる地方での新たなアートプラットフォームの枠組みを見つけて、徳之島で実践すること。



from 喜界島

鹿児島県立喜界高等学校
サンゴ留学生

サンゴ留学は令和5年度から始まった喜界町の高校留学制度。
現在、島外から集まった1期生～3期生が揃い17名で、寮生活を送っています。
私たちサンゴ留学生は、普段は喜界高校の学生として学校生活を送り、水曜日の放課後と土曜日を使って喜界島サンゴ礁科学研究所で様々な研究を行っています。
本日は、島外で育った私たちが感じる島での高校生活、私たちの研究の様子をこの舞台でお伝えいたします！



from 喜界島

喜界島ジオパーク推進協議会 事務局員
土屋 純子

1982年生まれ、東京都出身のシティガール。
幼少期は体が弱く、喘息や発熱を繰り返す日々を過ごす。本に親しむ時間が長く、その傾向は現在も変わらない。テレビ中継で目にした『日本人初の宇宙飛行』をきっかけに、宇宙への関心を抱く。
高校時代、部活動の合宿で伊豆諸島・式根島を訪れたことを契機に島嶼地域に興味を持ち、大学では地理学を専攻。
研修で訪れたフィリピンや、調査で通った石垣島での経験を通して、温暖な島の自然と人々の暮らしに惹かれていく。
卒業論文では「ナマコは環境指標生物となるか」をテーマに調査を行い、自然と人との関係を考える基盤を得た。
大学卒業後は会社員として働きながら、実家でゴロゴロする日々の中、学生時代に読んだ喜界島の地下ダムに関する論文が縁を結び、移住を決意。初訪問からわずか3ヶ月で引越、アラフォーで合宿免許も取得。現在は、喜界島ジオパーク推進協議会の事務局員として運営に携わっている。



from 沖永良部島

一般社団法人イタバ沖永良部代表理事
橋本 真太郎

1997年6月8日生まれ、沖永良部島出身。
沖永良部島で生まれ育ち、沖永良部高校卒業後国立大学法人鹿屋体育大学に入学。
全国レベルの環境に飛び込み、大学4年次には天皇杯鹿児島県代表として名古屋グランパスを撃破。
卒業後は沖永良部島初のリーガーを目指し広島、徳島の社会人チームで4シーズンプレーするも叶うことなく2023年引退。
故郷沖永良部島に恩返ししたい想いで2024年9月にUターン。
現在は、ジェラートショップ「POWER GELATO」を経営。
食とスポーツを通じてこれからの島の子どもの夢を実現できる環境作りに奮闘中。



from 与論島

与論住まいるプロジェクト実行委員長
江藤 善真

埼玉県さいたま市出身、1979年生まれ、46歳。
大学で建築学を専攻し、卒業後の2003年から約18年間、建築現場監督に従事。学生時代の旅をきっかけに東京の中野で三線を習い始め、三線コミュニティや伝統芸能活動に参加する。与論島出身者との縁から島への関心を深め、2021年に同島へ移住。
現在は、個人事業主として「何でも屋ありふりい」を営む傍ら、「生活支援コーディネーター」や「与論住まいるプロジェクト」のメンバーとして、福祉や空き家対策などの地域課題に取り組む。
また、奄美群島南三島経済新聞の与論支局長を務めるほか、「与論イノベーション」では出場を経て運営・講師を担当。文化面でも三線・笛奏者として活動するなど、メディア、福祉、産業、文化の境界を越えて活動中。